

JENESYS2024 ASEAN 同窓生のオンライン訪日プログラムの記録 (テーマ：日本文化・日本語教育)

1. プログラム概要

【目的・概要】過去に JENESYS に参加した ASEAN 諸国及び東ティモールの同窓生を対象に、海外展開している日本企業や組織・団体等の紹介を通じて更なる日本理解を図り、それぞれ日本とのつながりの共有や、意見交換によるネットワーク強化、そして同窓生活動の活性化を目的に 3 月 5 日～14 日までの 8 日間、オンラインプログラムを実施しました。

【参加者】ASEAN 諸国^(注) 及び東ティモールの同窓生 (2015 年度～2023 年度の参加者) 合計 33 名
(内訳) インドネシア 3 名、カンボジア 3 名、タイ 3 名、フィリピン 12 名、ベトナム 2 名、マレーシア 5 名、ミャンマー 1 名、ラオス 1 名、東ティモール 3 名

(注) ASEAN 諸国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

【日程】

- | | |
|----------------|--|
| 3 月 5 日 (水曜日) | <p>【挨拶】外務省アジア大洋州局地域協力室 高水 英郎 室長</p> <p>【オリエンテーション】</p> <p>【テーマ関連講義】「小松の文化」</p> <p>講師：小松大学 国際交流センター 准教授 星 摩美 氏</p> <p>【参加者間交流】</p> |
| 3 月 6 日 (木曜日) | <p>【日本語講座】「日本語の音とリズムを楽しむ」</p> <p>講師：一般財団法人 日本国際協力センター(JICE) 日本語講師 仁谷 沙耶香 氏</p> |
| 3 月 7 日 (金曜日) | <p>【講義・学校交流】</p> <p>「2024 年能登半島地震から私たちの未来へー災害ボランティア活動を通して」</p> <p>講師：大阪大学大学院人間科学研究科 教授 渥美 公秀 氏</p> <p>学校交流：大阪大学、関西学院大学、立命館大学、龍谷大学の学生</p> |
| 3 月 10 日 (月曜日) | <p>【文化体験】日本舞踊・三味線</p> <p>講師：向島芸者 千景 氏</p> |
| 3 月 11 日 (火曜日) | <p>【参加者間交流】</p> <p>ディスカッションテーマ</p> <p>① 「JENESYS プログラムの思い出」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の最も印象に残っている思い出 ・プログラム参加後に変わったこと ・近い将来日本にもう一度来ることができたら何をしたいか <p>② 「日本語・日本文化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自国での日本語教育の現状や教育法 ・自身の日本語教育経験・使ってよかった教材やメソッドの共有 ・今後さらにどのような日本語や日本文化に触れたいか |

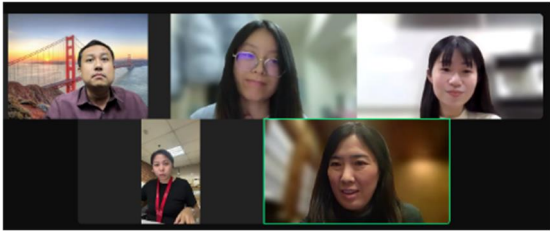
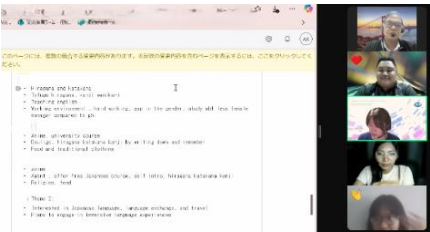
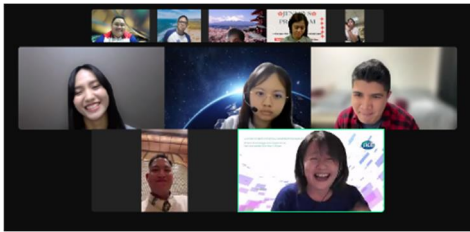
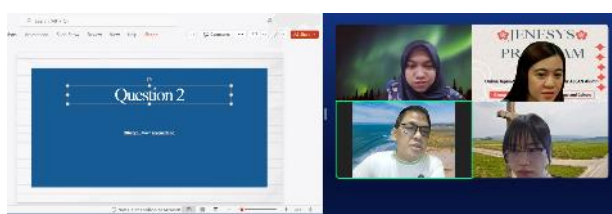
- 3月12日（水曜日） 【同窓生活動紹介】日本在住 JENESYS 同窓生によるパネルディスカッション
ディスカッショントピック：
- ① パネリストによる自己紹介
 - ② どのようにして日本へ留学もしくは働き始めたか
 - ③ 日本に来る準備で、やっておいてよかったと思うことはあるか
 - ④ 日本に住む前と後で、日本に対する印象は変わったか
 - ⑤ JENESYS 参加者全員へのメッセージ
- パネリスト：
- JENESYS 2018 同窓生
ミヤツケイカインゾー 氏（ミャンマー 大学院生）
 - JENESYS 2022 同窓生
タンヤジャラットポーン・ラッチャグリット 氏（タイ 大学院生）
 - JENESYS 2019 同窓生
ハラズ・イルファン 氏（マレーシア 大学院生）
 - JENESYS 2016 同窓生
アヨディア・パラマ・プトリー 氏（インドネシア 社会人）
- 3月13日（木曜日） 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、SNS 発信状況等確認、
帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
- 3月14日（金曜日） 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

このプログラムは、JENESYS2024 ASEAN 同窓生のオンライン訪日プログラム（テーマ：農業・食料システム）と一部合同で実施しました。

2. 記録写真

オンライン訪日プログラム

2025 年 3 月 5 日【テーマ関連講義】「小松の文化」	2025 年 3 月 6 日【日本語講座】 「日本語の音とリズムを楽しむ」集合写真

	
2025 年 3 月 7 日【講義・学校交流】日本人学生とのディスカッション	2025 年 3 月 10 日【文化体験】日本舞踊・三味線演奏 参加者も一緒に手踊り
	
2025 年 3 月 11 日【参加者間交流】	2025 年 3 月 12 日【同窓生活動紹介】日本在住 JENESYS 同窓生によるパネルディスカッション
	
2025 年 3 月 13 日【ワークショップ】	2025 年 3 月 14 日【報告会】

3. 参加者から寄せられた質問・関心事項（抜粋）

◆ 【テーマ関連講義】「小松の文化」について

- ・ 歌舞伎はなぜ男性のみで演じられるのですか。
- ・ 子どもたちが歌舞伎を演じる祭りが、毎年開催されることで、小松市全体にはどのような影響がありますか。
- ・ 金沢へ行ったことはありましたが小松まで足を運びませんでした。次に来日する際は、小松にもぜひ行きたいと思います。

◆ 【日本語講座】「日本語の音とリズムを楽しむ」について

- ・ 日本では、学生たちはいくつの漢字を覚えなければならないのですか。
- ・ 報告会において、「日本語の音とリズムを楽しむ」という講義からインスピレーションを得て、英語版俳句を作成した参加者がいました。

◆ 【同窓生活動紹介】パネルディスカッションについて

- ・ 日本でどのようにすれば仕事を得ることができますか。

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ フィリピン 社会人

私は、小松の豊かな文化、特に歌舞伎との深い結びつきに深く感銘を受けました。日本の人々が自国の文化遺産を大切に、それを現代社会にしっかりと根付かせている姿はすばらしいです。特に、時

代の変化や社会の移り変わりがあっても、小松は伝統を守り続け、歴史的な教訓を教育に取り入れ、祭りを通じてその文化を祝っている点が印象的です。もし機会があれば、ぜひ小松を訪れ、その文化の豊かさを直接目にし、活気あふれる祭りに浸りたいと思います。

◆ **ベトナム 大学生**

私は日本語を学ぶことや日本文学を読むことが大好きなので、日本語講座は本当にすばらしい時間でした。さまざまな種類の痛み（ずきずき、きりきり、ひりひり）や大雨を表す言葉（しとすと、ざーざー）を知るのはとても楽しく、ベトナム語にも似た構造の言葉がたくさんあるので、とても興味深かったです。また、俳句の 5-7-5 のリズムのルールについて学ぶのも面白かったです。これからもっと日本語を学び、さらに多くの俳句を読んでいきたいと思っています。

◆ **フィリピン 社会人**

日本人学生とのディスカッションを通じて、備えとボランティア精神の重要性を再認識しました。予測できない自然災害もあれば、予見可能な人為的災害もありますが、どちらに対しても事前に学び、計画を立て、被害を防ぐ、または軽減するための行動を取ることができます。こうした取り組みの背後にいる人々の存在はとても重要であり、ボランティア活動は優しさ、愛、そして思いやりを表すものだと感じました。

◆ **マレーシア 大学生**

芸者の文化と歴史はとても興味深いものでした。歌や舞、そして楽器の演奏はとても魅力的でした。

◆ **フィリピン 社会人**

パネルディスカッションを通じて、日本に住む JENESYS の同窓生とオンラインでお会いできて嬉しく思います。彼らの JENESYS での経験が、日本で学び、働くための扉を開き、多くのチャンスをもたらしたことがよく分かりました。私自身も、日本を働く場所や学びを深める場として魅力的に感じているので、日本で勉強や仕事をするためにどのような準備や道があるのかを学ぶことができました。また、JENESYS の仲間とのつながりを大切にし、関係を維持することの重要性も改めて実感しました。

◆ **タイ 大学生**

ASEAN 同窓生として、もっと日本について、特に文化と伝統について学びたいと思います。

◆ **フィリピン 社会人**

この機会に感謝します。素晴らしい講師陣からお話を聞くことができました。今回得た学びと皆さんが共有してくださったアイデアを、これからも大切にしていきたいと思っています。今後の活動やプログラムを楽しみにしています。

◆ **ラオス 大学院生**

このプログラムを通じて素晴らしいことをたくさん学べました。機会をいただければ、今後のプログラムにも是非、参加したいです。

5. **受入れ側の感想（抜粋）**

◆ **講師**

日本に興味を持ち、熱心に参加している若い参加者がいることは、日本にとってとても大切な財産だと感じます。JENESYS プログラムが同窓生に対してこのような継続的なプログラムを行ってい

ることを今回初めて知りましたが、次の世代を育てる、とても有意義なプログラムだと思います。本学では、これまでも大学教育の国際化を目指し、教育活動を行ってまいりましたが、人が交流することによって得ることができる価値を再確認いたしました。これを機に本学の日本人学生にも日本の外に目を向けてもらう教育を行いつつ、積極的な留学生の受け入れ、文化というコンテンツを利用した語学の教育に取り組んでいきたいと思っています。

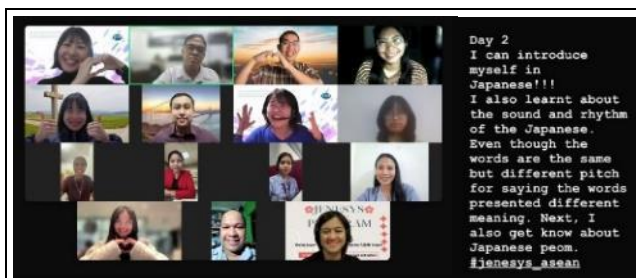
◆ 講師

ASEAN の皆さんがとても熱く反応してくださいましたことは大きな支えとなりました。こちらからの話題提供を真摯に受けとめてくださり、その後のグループ・ディスカッションで活発にご議論いただき、皆さんのアイデアと熱意に感銘を受けました。これを機に、学生たちが ASEAN の皆さんと継続してつながりを持ってくれることを願います。

◆ 交流校学生

異なる国の災害事情について多様な意見を聞くことができ面白かったです。グループ内で意見が分かれてもお互いを理解しあう姿勢があって、とても充実したディスカッションでした。

6. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

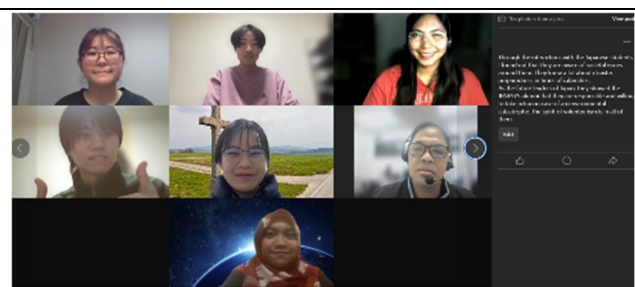


2025 年 3 月 6 日（Instagram 等）

マレーシア 大学生

2 日目

日本語で自己紹介ができるようになりました。
日本語の音とリズムも勉強しました。単語は全く同じなのに、音の高さで意味が変わります。俳句や川柳についても学びました。



2025 年 3 月 7 日（Instagram 等）

フィリピン 社会人

日本人学生との交流を通して、彼らは自分たちを取り巻く社会問題をよく認識していると感じました。災害時にどのように対処するかについてもよく知っています。彼らは、明日の日本のリーダーとしての責任感を持ち、災害時には行動を起こす強い意志があることを、私たち JENESYS 同窓生に示してくれました。彼らの中にはボランティア精神が宿っています。

2025 年 3 月 11 日 (Facebook) フィリピン 社会人 熟練した芸を披露してくれた芸者の千景さんを迎え、芸術と伝統を通じて、世界の懸け橋となる文化的な体験をすることができました (4 日目)。	2025 年 3 月 14 日 (Facebook) タイ 社会人 すばらしいお知らせがあります。JENESYS 同窓生のための同窓生のオンライン訪日というオンラインプログラムをご存じでしょうか? このプログラムは、日本語と日本文化の学びを続けるための素晴らしい機会です。また同窓生間の強いネットワーク作り、同窓生としての活動を促進する機会でもあります。このバーチャルプラットフォームを活用し、変化を促し、より多くの学びを創造していきましょう。JENESYS 同窓生である私に、再び日本を想うすばらしい機会を与えてくださったことに感謝します。
	2025 年 3 月 11 日 (公立小松大学ホームページ) 「国際交流センター星摩美准教授が外務省の対日理解促進交流プログラム「JENESYS2024 ASEAN 同窓生のオンライン訪日プログラム」にて講義を行いました」 3 月 5 日 (水)、ASEAN 諸国及び東ティモールの高校生から社会人を対象とした外務省の対日理解促進交流プログラムである「JENESYS2024 ASEAN 同窓生のオンライン訪日プログラム」が実施され、国際交流センターの星摩美准教授が「小松の文化／Japanese Culture in Komatsu」というタイトルで小松市における歌舞伎をテーマに講義を行いました。(中略) 講義では小松市のイメージキャラクター「カブッキー」を取り上げ、歌舞伎と小松市の関係を考える活動をグループに分かれて実施しました。

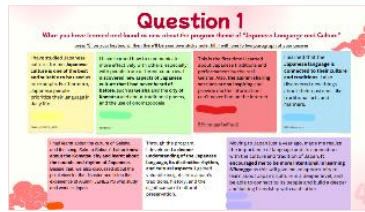
	参加者からは「歌舞伎と小松市の『お旅まつり』が印象に残った」、「伝統的なものがどのように今の生活の中に生きているか理解できた」、「小松に行ったら本当の歌舞伎を体験したい」といった感想が寄せられ、小松市の文化に興味を抱くきっかけとなった様子でした。
--	--

7. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

オンライン訪問地：東京都、新潟県、大阪府、岡山県 全3グループ発表

グループ A1/A2	
  	【オンライン訪日中の成果】 ◆ 日本語・日本文化について新しい学びと発見 小松市での取り組み、日本語のリズムや同音異義語に富むという特性、伝統芸能を守る芸者の存在などを通して、日本文化の豊かさを再認識しました。また災害時のボランティア活動においてルールにのっとって行動するのがよいのか、その場の状況に合わせて柔軟に行動するべきなのかを考える機会をいただきました。 ◆ 日本人との交流／日本文化体験を通して得た気づきと発見 （2016年 JENESYS 参加時の話）学校訪問で授業風景を見学しました。工夫に富んだ指導法は、現在教師をしている私にとって大いに役立っています。ホームステイでは、美しい高原に行き、手作りの料理を作ってくれました。温かいおもてなしへの感謝を忘れることはありません。 【アクション・プラン】 持続可能な形、例えば SNS キャンペーンやオンライン交流等の形で ASEAN と日本の絆を強化し文化の相互理解に努めます。具体的には下記の4点です。 ① 異文化理解を促進するために、SNS を通じて、日本の伝統文化、日本語等に関する気づきを共有や、日本語学習者と交流プログラムを実施します。 ② ASEAN と日本の絆を強化するために、オンライン（時にはオフラインで）JENESYS 同窓生とイベントを実施します。また、SNS を使用して、相互理解と日本文化への理解を促進します。 ③ 持続可能な文化交流を推進するために、日本の若者と ASEAN の若者とのオンライン対談を実施し、互いの文化の類似性等について話し合う機会を提供します。 ④ SNS キャンペーンとして、個人の SNS アカウントを使用して、日本文化に関する経験や知識を共有すると共に、#JENESYSCulture や #JENESYS_ASEAN などのハッシュタグをつけた投稿 キャンペーンを実施します。

グループ A3/A4



【オンライン訪日中の成果】

◆ 日本語・日本文化について新しい学びと発見

言葉と文化は深く結びついており、日本語を学ぶことで日本文化をより深く理解できることがわかりました。パネルディスカッションからはネットからは決して得られない貴重な情報を得ました。俳句や芸者、小松市の取り組みなど新しい発見が多くありました。

◆ 日本人との交流／日本文化体験を通して得た気づきと発見

日本政府は、日本文化を観光資源の中心に位置づけることで、その保護に取り組んでいることを知りました。また、災害ボランティア活動における新しい視点を学び、高度な警報システム、定期的な避難訓練等により減災に努めていることを知りました。

【アクション・プラン】

それぞれの立場で、JENESYS プログラムや日本文化について紹介します。学生であればクラスメートや友達にプレゼンをし、教師であれば生徒たちにこのプログラムの紹介をします。このような活動を通して JENESYS に対する認識の向上に努めます。また SNS に毎回ひとつのテーマに絞って日本文化の紹介をします（例：芸者／舞妓）

グループ A5



【オンライン訪日中の成果】

◆ 日本語・日本文化について新しい学びと発見

日本語やその文化に対する理解を深めることができただけでなく、被災地におけるボランティア精神・コミュニティの回復力についても学ぶことができました。国の文化や伝統を守ること、地域社会の積極的な参画は、国のアイデンティティ形成において重要な役割を果たすことがわかりました。

◆ 日本人との交流／日本文化体験を通して得た気づきと発見

日本文化についての見識を深めることができました。伝統文化を守り伝える上で、地域における文化の担い手の育成や伝統文化を教育に取り入れることの大切さを学びました。

【アクション・プラン】

これからも日本語を学び、日本文化への理解を深めながら、ASEAN と日本の絆をより強くしていきたいと思います。そのためのネットワーク作りで SNS は重要な役割を果たします。今回の参加者だけでなく、日本にいる JENESYS 同窓生とのつながりも維持していきたいと思います。また自国においては生徒たちにこのイニシアティブについて指導していきます。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）